

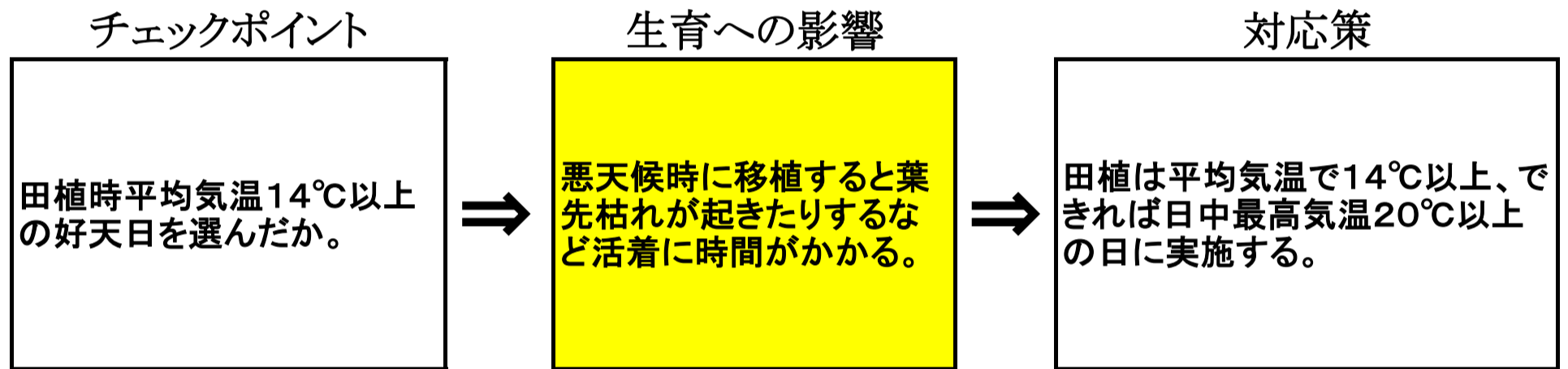
単収確保に向けて 《第三弾》

4月中旬以降も気温が平年より高かったり低かったりと、不安定な天候となっております。特に、育苗ハウスでの温度管理については、最新の注意をはらって管理をお願いします。

単収確保に向けた重点実施事項

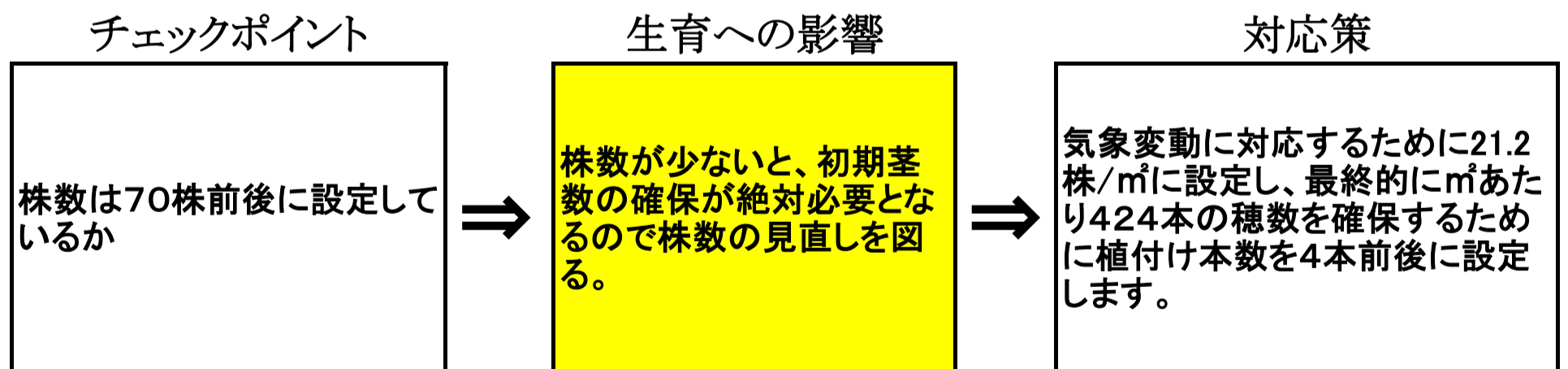
◎早期に活着させるために好天日に田植をしよう！

- 悪天候時に無理に田植作業を行うとその後の活着に時間がかかり、初期生育の確保にも影響がでます。又、葉先枯れ等の症状が起きる場合もありますので、好天時に田植作業を行いましょう。
- 老化苗を移植することにより活着に時間がかかりやすくなりますので、移植予定日に合わせて本田作業の準備をお願いします。



◎安定した初期茎数を確保するために、70株前後を確保しよう！

- 株数が少ないと初期茎数の確保に難儀する場合がありますので、70株(21.2)前後を推奨します。
- 強勢茎で確保できる茎数は、70株植えてm²あたり424本となるので、4本植えが理想となります。
- 目安としては、乾もみ130g播種の場合は10aあたり22箱、乾もみ120g播種の場合は10aあたり24箱が箱数の目安となります。



チェックポイントを点検し
該当する対応策を実施しましょう。